

明日の淡海

自然と人の共生をめざして

Vol. 18
2010.3

～ヨシ特集～

財団法人 淡海環境保全財団



温室効果ガス 50%減に取り組む



滋賀県琵琶湖環境部長
西嶋 栄治 氏

滋賀県では2030年時点の県内温室効果ガス排出量を1990年比で50%削減するという意欲的な目標に挑んでいる。この背景には、2007年冬に嘉田知事が「地球温暖化問題の小さな窓」と表現した琵琶湖の異常現象に直面したことがある。

琵琶湖では、水草の大量繁茂や外来魚問題など次々と新たな課題が起きているが、中でも2007年の冬、例年より気温がわずかに1.5度高かっただけで、表層の水が冷やされ重くなって沈み込むことで底層の水と混合する「全循環」という現象が、2カ月ほど遅れ、湖底に十分な酸素が供給されない事態が起こった。湖底には、イサザやスジエビなど、いろいろな生き物が棲んでおり、低酸素化のこれら生物への影響が懸念され、場合によっては、これまで取り組んできた水質保全対策が一気に水の泡になってしまう恐れがあるような事態となった。このことは、一見、異なる事象である地球規模の温暖化問題と地域の課題である琵琶湖の環境問題が繋がっていることを実感させるものであり、私たちに、母なる琵琶湖を保全するためにも、温暖化対策への取り組みが必要との決意を新たにさせることとなった。

さて、この目標を達成するため、昨年の11月県議会において2030年温室効果ガス半減を長期目標に掲げた「第三次滋賀県

環境総合計画」を可決いただいたところであり、県では2010年度には目標達成に向けた「工程表」を策定し、その実効性を確保する「滋賀県地球温暖化推進条例」（仮称）を制定することとしている。

滋賀県には幸いにして貴重な財産がある。琵琶湖の水質保全の歴史で培われた経験や、近江商人の「三方よし」に代表される社会意識の高さといった、滋賀固有のいわば「環境DNA」が、それである。その一例として、経済界と県が協力して取り組むエコ・エコノミープロジェクトがある。本県経済界では、全国に先駆けて、早い段階から、環境と経済の両立の必要性が認識され、経済成長とCO₂排出量削減を同時に進めるためのプロジェクトが展開されてきており、長期目標達成に向けて、更なる展開が期待されている。

地球温暖化問題への対応が待ったなしの状態といわれる中で、この問題の解決には、経済界の協力のみならず、県民ひとりひとりの日々の取り組みが欠かせない。滋賀県が、名実ともに、トップ・ランナーとして温室効果ガス50%削減という目標を達成できるよう、これからも様々な主体と連携をとりつつ、温暖化対策に邁進していきたいと考えている。

Contents

■巻頭言	温室効果ガス50%減に取り組む	1
■ヨシ特集	今、ヨシが熱い	2
	ヨシを植える	2
	ヨシを刈る	4
	ヨシを活用する	6
	ヨシを伝える	7
■私の仕事	持続可能な経営～地域社会とともに～	10
■地域の特集	マンション自治会が取り組む琵琶湖の水草対策	14
■滋賀県地球温暖化防止活動推進センターだより	CO ₂ ダイエットコンテスト in おうみ2009	16
■財団活動紹介		18

今、ヨシが熱い

今、琵琶湖のヨシが熱い。もともと滋賀県では琵琶湖を守る市民活動は盛んです。特に琵琶湖の生態系保全に大きな力を持つ琵琶湖のヨシを保全するための活動が近年大きな盛り上がりを見せるようになってきました。「滋賀県琵琶湖のヨシ群落の保全条例」の施行より18年あまりがたった今、地域社会に機運が高まってきました。多くの人がヨシ保全のボランティアに参加したり、琵琶湖のヨシを使った製品を作ったり取扱いたいとする企業・団体も続々出てきました。当財団も平成5年度の設立当初より、琵琶湖のヨシのスペシャリストとして、ヨシの重要性を訴える様々な事業を展開したり、市民団体への技術や資金の支援も行ってきましたが、まさにこの日を迎えつつある予感がします。

この特集は、「ヨシを植える」「ヨシを刈る」「ヨシを使う」「ヨシを教える」の4つの側面
で現在ヨシ保全に活躍されている方々や団体を紹介し、ヨシブームを迎えつつある滋賀県の現状を明らかにしようというものです。

「ヨシ行けどんどん作戦」は、湖岸にヨシ群落を再生し水鳥や魚の生息地を増やし水質保全に役立てようと、長浜市立びわ中学校で平成14年に始まりました。毎年ヨシ苗を栽培し、9月頃、湖岸にヨシを植え、冬にはヨシ刈りをして地元のヨシ群落の保全を行う活動です。普通は琵琶湖にヨシを植えることは手続き上難しいといわれていますが、様々な難題を突破され、非常に意義のある取り組みです。歴代のPTA会長さんや、地域の方々もこの取り組みの意義を認めていますし、平成21年12月には、日本水環境学会関西支部から「環境教育」で表彰されました。まさに時代を先取りした活動ともいえます。

長浜市立びわ中学校
PTA会長

中川 豊己氏



平成21年度に8年目を向かえた「ヨシ行けどんどん作戦」について、長浜市立びわ中学校PTA会長中川豊己さんに伺いました。

ヨシを植える
長浜市立びわ中学校「ヨシ行けどんどん作戦」

親としての
関わり

関わってみてはじめて大切さが分かる活動です。僕自身の子どもが中学校に関係が無かったとき、看板や垂れ幕を見て、「何をしてはるんやろうな」と思っていました。そんな中で、自分の子どもが1年生のときに、「親子フォーラム」という形で参加させてもらいました。最初は「行かないとしゃあないな。何をするんだらう」という感じで参加していたのが、2年生になって「去年植えたものはどうなっているかな」、3年生になりPTAの役を預かったときは、この行事の伝統や環境やヨシへの思い、今までの試行錯誤のことにまで考えが

至るようになり、これからも続けていってほしい行事だと思っています。

私は、「びわ町」という琵琶湖の名前がついた町で生まれ育ち、子どもの頃には湖岸で遊びました。小学生の頃は、夏になったら泳げるように、湖にプイを浮かべてくれていたので、よく泳ぎにきました。中学生になると釣りをよくしました。ヘラブナなどを釣っていました。ヨシの生えているすぐそばにはいろいろな魚が泳いでいました。自分らの手でそんな環境を取り戻せたいなと思います。親として、そしてPTAとして地域の関わり、子どもと一緒に穴を掘ったりしていくうちに、その様子を見ながら、子どもたちが仲良くやっているかな、などもたちの生き生きした姿を見るいい機会になりました。

活動を続ける苦勞

以前のお話を聞くと、活動の現場では、一年目には反発があったようです。「何をさせられるんや」という反抗心を持って中学生は横の広場でボールをけって遊ぶ光景もありました。

ただ次の年には、その同じ子らが一生懸命ヨシ植えに参加している姿がありました。「何で去年はやらなかったんや」と聞くと、「去年は何のこっちゃ分からなかったんで、また押し付けられて変なことをさせられていると思った。」

でももう意味も分かったしやり方も分かったから、これはええことやと思うからやる」。

彼らも3年生になってヨシ植えの経験者になっていったし、今度は周りをひっぱってやってくれました。1年生の頃からやっている子らは違和感なく活動に参加していました。

周囲についても最初は、役員、保護者の方にも運営のノウハウがなかったのでやるだけで精一杯なところがありました。3年目くらいから経験を持つ方が出てこられたこともあり、軌道にのっていきました。初期の頃は、活動への否定的な感想なども寄せられることがありましたが、最近では聞かなくなりました。

はじめの5年間くらいの間には、活動の中止の危機もありました。学校の関わり方も、最初は関係した方だけの関わりから、年を経ることに、多くの先生方に関わってもらえるようになり、やっていくうちにじわじわ地域にも広がっていったようです。

学校とつながりの取り組み

現在でも湖北では「ヨシを何とかしよう」というところは少ないです。「旧びわ町」では「ヨシは大切なものだ」というのを3年生などは非常に持っています。ヨシを育てることに誇りを持って一所懸命にやっています。



びわ中3年生制作のヨシ色紙掛け

そういう中学生の姿を小学生のうちから見て、中学生になったら、「こういう中学生になるんやで」というのを感じられるようにと小中での連携をしようとしていました。「びわ南小」と

「びわ北小」の池でもヨシを育ててもらおうと、苗を植えました。中学校の先生を指導者として送り出しもしました。しかし、今年新型インフルエンザのせいで親子活動が中止になってしまいました。ヨシ植えが平日実施となったので、小学生にも植えてもらうようにしました。小学生を中学3年生に指導させました。すると一人で持てるのに、一緒に持ってあげたりして、小学生に非常に優しく教えている姿が見られました。ヨシの芽の息吹、成長、子どもたちは生命の躍動に触れていると感じたようです。小学生は、「中学校に行ったらヨシ植えやヨシ刈りをするものや」と思ったみたいです。続けたいという声が多いので、さら

に活動が広がるにはどうしていったらいいかと考えています。また去年のような親子の取り組みもしたいと思っています。それらをミックスして行うにはどうすればいいかと考えています。

「ヨシを植える」活動団体の紹介 (敬称略)

【守山市立中洲小学校】
平成17年度より小学校のヨシ学習を通じて、ヨシの栽培や琵琶湖へのヨシ植栽、ヨシ刈り等を行ってきた草分け的な小学校。

【びわ湖自然環境ネットワーク】
平成15年度より、「びわ湖よしよしプロジェクト」を主催し、粗朶消波堤や竹ポットなどのノウハウを琵琶湖に導入し、琵琶湖各所で行政との協働を含め、市民ヨシ植栽を実施している。

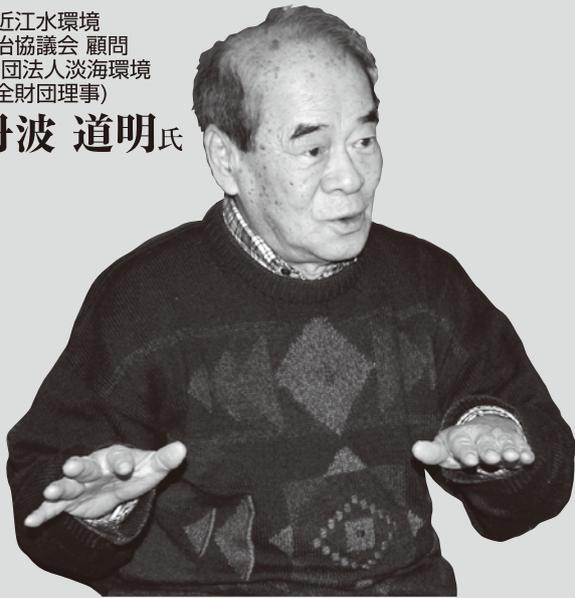
【ながはまアムニティ会議】
平成5年度より、長浜市と協働し、琵琶湖岸のヨシ保全活動を実施している。本年度は、市民レベルで初めて、竹突堤を設置し、ヨシを増やす努力をしている。

【松沢松治】
中主漁業協同組合副組合長。各行政機関や市民団体、地元自治会と協力し、平成17年度から野洲市湖岸にヨシを植栽。数年後には、ヨシ刈りイベント開催を目指している。山から琵琶湖まで、流域を通じて活動する先進的な漁師さん。

ヨシを刈る

東近江水環境
自治協議会 顧問
(財団法人淡水環境
保全財団理事)

丹波 道明氏



東近江水環境自治協議会は平成12年、西の湖の周辺に住んでいる安土町と近江八幡市の住民有志を中心に設立された。西の湖を中心にして、上流の鈴鹿や下流の琵琶湖・淀川を視野に入れた水環境を、昔のように美しく「いのち」あふれる状態に取り戻したいという思いから、水環境の観察やヨシ刈りなどの活動に取り組んでいる。

なかでも滋賀県一のヨシ原を持つ西の湖だけに、冬に開催するヨシ刈りイベントは、ヨシ刈りだけでなく各種の楽しいイベントを企画し、昨年度は「よし博」として結実、年間千人に近い参加がある。

現在、正会員200名、7企業。

——この活動を始めた動機は。

私が暮している安土町下豊浦の永町という集落は、今は干拓されて無い小中の湖という内湖に面していました。

集落には緑豊かな田畑があり、一面していた内湖の水中には美しい水草と共に魚、貝、えびなどが生息し、空にはトンボやトンビが飛び交うなど、多くの生き物に囲まれた土地柄でした。

このような集落に住んでいましたので、子供のころは魚釣りに夢中でした。魚の習性を知らぬまま魚釣りをしていたため、水中に数多く見える魚が、そう簡単に餌に引っかからない。釣りに疲れ

たあげくの果てに、あいつらほんまに賢いなあと感心したことなど、嫌いな生き物、好きな生き物、共に一杯いしましたが、そのすべてに驚きに満ち溢れた水辺でした。

それが私の子供の頃に抱いた故郷の湖畔の原風景だったのです。

成人してからは仕事で永らく故郷を離れ、定年になって永町へ帰ってきたら、大中の湖も干拓されて西の湖しか残っていない。その西の湖も湖底は小中の湖干拓地の排水の泥で覆われ、貝や魚の姿がめっきり少なくなっている。大げさに思われるかもしれませんが、「いのち」が少なくなった湖だと感じました。

そうしたのは我々人間ではないか、このような暮らしを続けていたなら、我々人間も危ないぞ、という思いを持ちました。

幸いなことに、子供の頃の体験を共有する仲間が私を述べてみると共感する者が多く、「この仲間と昔のような美しい景観や多くの生き物の住む水環境を回復させたい」とこの活動を始めました。

——どうしてヨシ刈りを始めたのですか。

「西の湖とヨシ原は二つが健全にそろってこそ景観にも環境にもよい場所となる」と思っていましたので、滋

賀県一の、日本有数のヨシ原が手入れされずに荒れてゆくことへの危惧が、ヨシを刈ることに結びついていきました。

——こういった活動ができやすい土地柄なのですか。

どこでもそうだとおもいますが、その土地に長く住んでいる人には、その場所が日常的な風景となっており、宝物にもなりにくいし、問題意識を持ちにくいのです。現にヨシ刈りに来ていただけると人はこの土地以外の人が多い。

しかし、私のように長く郷里を離れていた者が帰ってきて「こんなきれいなところ、そうないで」とか「このままほったらかしにしておいたら、えらいことになるで」というと「ああそうか」と反応してくれる幼な馴染みがいてくれました。

また、もともとは琵琶湖の舟運の港であった豊浦港のあった場所、織田信長が短い期間であれ、この舟運を生かして安土城を築いたから、珍しいことが好きなのが多いのかな、港だったことが影響して人間に対して開けた場所なのかもしれないと思っています。

さらに、楽市楽座をしていた先祖を持つ人も居るだろう。お百姓さんは一所懸命になるところがあるが、それだけではない自由な雰囲気が残っているのかもしれないと思います。

——「ヨシ刈り」活動はどんな地域にも興ると思っていますか。

そう簡単に興ってくるものではない
と思っと思っていますよ。

例えば、特色ある歴史を持つ場所だとそれを守り伝えようという活動が出てきやすいが、そこどこにでも特色ある歴史の遺産があるわけではない。

また、歴史がなくとも里山、里湖の景観や環境は、もともとは生業として手入れが行われ、その結果として心休まる空間が誕生したことを忘れてはなりません。時代の変化に応じながら手入れの生業が成り立っていくことは、そう簡単なことではありません。

「我々の10年15年あとまで、担い手が出てくるだろうか」「ボランティア活動はどれだけ続くのだろうか」「昔の景色や自然を回復したいという気持ち」がどこまで共有できるのか」と考えました。

ボランティア活動で大切なのは例えば干拓以前の美しかった内湖を取り戻したいというような動機の共有です。ところが昔を知る人はだんだんと少なくなりま

す。そこで、東近江水環境自治協議会と背中合わせで株式会社豊葦原会を作りました。たとえわずかであっても、お小遣いが入ってくるような形での自然保全、里山・里湖の手入れに取り組みを考えたのです。

——ヨシ刈りの空間

ヨシ刈りして出来る空間というのは気持ちのいい空間ですよ。ヨシ刈りを自由にさせると、めいめいに面白いことをやり始めます。ヨシを円く刈り切って広場を作りたがる。そうすると、ぐるりの音が吸い込まれ、なんともいえない静かで異次元な空間が生まれます。穏やかな気持ちのいい空間が「ぽこつと」できる。誰かが円く刈りよるのを見ると、わたしは内心「にやつ」とします。同じことを思うとるんやなど。

水とヨシ原があつて、山が見える。本当に贅沢です。しかも周辺地域が持っている時代のつながりがただものではない。

安土城以外にも、弥生時代の大中の湖南遺跡や滋賀県最大の前方後円墳瓢箪山古墳、老蘇の森、沙沙貴神社や観音正寺、桑実寺、摠見寺と宗教的な場も豊かです。ゆったりするちゅうか、おちつけるちゅうか。

このような場所をほったらかしにしたら「ばちが当たる」、ヨシを刈らな

■「ヨシを刈る」活動団体等の紹介(敬称略)

【守山湖岸振興会】

守山市の琵琶湖岸の14事業所と守山市で構成する団体。平成13年度より、地元琵琶湖岸でヨシ刈りを実施。そのほか、ヨシの学習会を積極的に実施している。

【琵琶湖ヨシ環境事業協同組合】

平成4年度設立。滋賀県のヨシ加工業者等を中心とした団体。13業者が加盟し、琵琶湖のヨシ刈りなどの事業を実施している。

【近江舞子内湖を愛する会】

平成16年度より、活動する。近江舞子内湖を中心にヨシ植え・ヨシ刈りや地元小学校への学習会等を実施している。

【NWGC】

草津市下物町の若手グループ。烏丸半島周辺の活性化のために、平成12年度より、ヨシ刈りや子ども学習会、松明まつり等の各種イベントを実施している。

【瀬田川リバブレ隊】

平成14年度より、琵琶湖下流の瀬田川で、付近の大学、高校、企業などのポーター、ボイススカウト、ガールスカウトの子どもたちと協力してヨシ刈り等のヨシの保全活動を行っている。

【大津市役所】

平成2年度より、「湖辺ルネッサンス」大津のヨシ作戦」として大津市の湖岸の各地域で市民ヨシ刈りとヨシ松明まつり等実施してきた。市民ヨシ活動を盛り上げてきた草分け的存在。

【株伊藤園】

平成19年度より、滋賀県で一般参加のヨシ刈りを実施する。関西地区における「おいしいお茶」の全飲料商品を対象に売上金の一部を琵琶湖のヨシ保全に寄付している。

【近江八幡産生産組合】

近江八幡市の西の湖のヨシ地の地主さんの団体。その中心地である「円山(まるとやま)」地区は日本最高品質のヨシが収穫され、高級な家具や簾用のヨシが生産されている。

【高島市役所】

平成13年度より、地元で市民ヨシ刈りを実施している。地元針江のヨシ原はNHKの「映像詩、里山」の舞台になった自然あふれるヨシ原で、琵琶湖の中でもヨシの品質は高い。

【株滋賀銀行】

平成11年度より、滋賀県内2か所で、行員さんによるヨシ刈りを実施。近年は、様々な地域の企業とともに、刈り取ったヨシで全行員さんの名刺を制作している。平成21度は、800名以上の行員さんが参加した。

【竹田勝博】

安土町のヨシ屋さん。早くからヨシの未来に危機を感じ、平成4年度より公募型のヨシ刈りボランティアを西の湖で主催する。その後ヨシ灯り展などヨシの普及啓発に取り組んでいる。

プティローズ (大津市)

ヨシを活用している団体は多種多様です。大企業から地域の商店、作業所、個人など。またそれに携わる団体は様々で、これが現在のヨシ活用の特徴でもあります。大津市の主婦のグループで、さまざまな視点でヨシ紙を使った作品を提案されているプティローズさんに「ヨシを活用する」ことについて話していただきました。



プティローズ ヨシ作品

ヨシを 活用する

ヨシ紙を使うようになったきっかけ

ヨシを使った手漉き和紙に出会った時、この紙で工作をしてみようと考えました。手漉きの和紙には、ヨシの繊維が残っており、柄になります。十年前程前「湖辺ルネサンス大津のヨシ作戦」が開かれ、大津市内の小売店舗をはじめ、町なかで大津市の職員さんがヨシ工作をされていました。そこで大津市に依頼され、このヨシ紙工作を披露することとなったのがきっかけです。

ヨシ紙だけではなく、ヨシを使って、花瓶やペンたて、ヨシ額「フォトフレーム」、ヨシズの色紙掛けなど、思いつくまま挑戦してみました。ヨシを使った工芸作品が出来上がり、ギャラリィや銀行、喫茶店で展示をするまでになりました。

ヨシ紙は、使っていると非常に風合いがあり、温かみがあるいい紙で日本の和紙の感覚でいろいろなものが作れます。最初に取り組んだのは、お正月の祝い箸を入れる箸袋です。

昭和六十年代初め宇治（京都府宇治市）の少年院に打出中学PTA婦人部が研修に行き、少年院に家庭の温かみを何かでプレゼントしようとはじめたのが祝い箸です。ヨシ博物館館長の西川嘉廣さんに、ヨシ紙は祝いの紙なのだを教えてもらい、そこで、ヨシ紙に「寿」を印刷し、その年の干支を貼つ

た箸袋を作り、少年院に持っていきようになりました。この活動は平成二十一年に宇治の少年院がなくなるまで二十四年間続きました。この箸袋は毎年十月ごろから作りはじめ、今も多くの方々にお正月のお祝い膳に使って頂いております。

アートフラワーとヨシ紙との出会い

もともと、私達は布花（アートフラワー）公民館など教えています。布をヨシ紙に替えて、ヨシアートを作ってみようと考えました。最初は紙だけで作っていたのですが、紙だけだとどうしても破れやすいし持ちが悪いということもあり、布と紙を貼り合わせてみたところ、ヨシ紙の温かさが出来上がった花に伝わり素晴らしい作品となりました。

平成十三年ヨシ博物館ができたとき、博物館に寄贈したことからも多くの皆様の目に留まり、びわ湖ホールやウォーターステーション



プティローズ作業場にて

琵琶、今では琵琶湖汽船の船の中にも、季節の花の数々を展示させていただいています。

また、平成十九年十一月に大津港周辺で開催された「豊かな海づくり大会」では大きな四つの壺に、四季のヨシをテーマにしたヨシアートの花々を展示しました。とても好評で知事さんを始め訪れた方々が、この作品を背景に記念写真を撮っていました。

■大津とヨシ

大津には葎原町という地名があります。昔からヨシがあったんですね。浜大津の辺りは昔、大津城の周囲にめぐらされた堀だったと言われていますし、昔の古文書を見るとヨシが生えていると記されています。

現在京阪石坂線が走っている辺りも昔は、ヨシがあつて、琵琶湖だった。守山のほうからこのあたりまで船で着て荷物を下ろしたりしていたのです。旧市役所があつたところは、昔は堀で船着場がありました。今は江戸時代から比べると琵琶湖の水位は1メートルくらい下がっているとうことです。昔から大津の人がヨシに対して関心を持っていたのも納得できます。

ただし昔に比べ現在は、湖岸にマンシヨンやビルが建ち並び、びわ湖のヨシなどの自然と人々の生活が少し離れて来ているような気がします。

私達の小さな活動が、みなさんの関心呼び、びわ湖を見直すきっかけになると願いながら、これからも楽しい作品を作り続けていきたいと思っています。

■「ヨシを活用する」活動団体等の紹介(敬称略)

【株】コクヨ工業滋賀

平成17年より、ヨシ原を守るため「reDEN(リエデン)」の製造販売を始める。また、環境団体への寄付、出前授業を行い、「ヨシでびわ湖を守るネットワーク」を創りヨシ刈りボランティアに社員が仲間と参加するなど社会貢献を積極的に進めている。

【伴】ビーアール(株)

大阪の会社ながら、滋賀県のヨシにこだわり平成11年度より「レイクパピルス」として関西の企業を中心にヨシ紙を販売している。

【西川】嘉石衛門商店

ヨシの老舗。西の湖山地区を中心としたヨシ地の大地主・生産者として地元ヨシ産業を長年支える。ヨシ自体の販売を長年やってきたが、近年「びわ湖ヨシ紙」としてヨシ紙、ヨシペンなどの加工品にも取り組んでいる。

【菊井】

ヨシを使った縦笛「菊井式琵琶湖よし笛」を平成11年に考案する。「日本よし笛協会」を設立して広く全国によし笛の普及に努めるとともに、作曲や演奏家として活動している。

【はなちゃんず】

よし笛の演奏者「日本よし笛の

会」代表。夫婦で全国によし笛を演奏・普及するほか、よし笛の制作も行っている。

【ほつとつと】

よし笛の演奏者。「琵琶湖よし笛」を使って各地で演奏会を行う。演奏間のユニークなお話も面白い。

【大津市立下阪本小学校】

自分たちで刈り取ったヨシを用い、手漉きで自分の卒業証書を作る取り組みを10年以上行っている。

【伊藤忠商事(株)】

近江商人を発祥とする大手総合商社。滋賀県の環境を守るためヨシ繊維に取り組んでいる。その繊維を利用して現在多くの商店が、ヨシ繊維製品の試作を行っている。

【よしきりの会】

平成13年度より安土町商工会女性部有志が運営する会。現在は、ヨシジェラート、ヨシうどんなど様々なヨシ食品を製造販売している。

【秀次倶楽部】

近江八幡市のNPO。平成17年度よりヨシ入りの食品やヨシ紙製品を本格的に販売している。

ヨシを伝える

ヨシ指導員
下田義春さん



さんにお話を伺います。お二人は、ライフワークとしてヨシを伝える活動に取り組んでおられます。

ヨシ指導員
小寺貫さん



特集の最後に、ヨシと琵琶湖の関係について小学校の依頼を受けて環境学習の支援をしておられる下田義春さんと小寺貫

「ヨシ」の歴史

下田 私は、ヨシの働きの中で、景観から入りました。守山の小津袋にヨシ群落があります。このヨシに魅せられたのがはじめです。

小寺 私にとってヨシの原点は、子どもの頃よく遊んだトンボ釣の風景です。さおの先に糸をつけ、糸の先にトンボをくくって回すと友釣りができます。そういうことをヨシの生えている池のほとりでやっていました。ヨシが育ってきた青いやわらかい部分を引っこ抜いて、くるくる巻いているものを戻して、笹笛のような感じで遊んでいた。そのときに、「葉は節から生えていないな」などと観察していました。ヨシの葉の真ん中にはところどころに歯型のような跡が付いています。これは「蓮如さんが空腹のときにヨシの若葉を噛んだために付いた」と伝えられています。こういった伝説もヨシの魅力の一つです。

小学校で学習する

下田 私は教えるというより、一緒に楽しんで「ほんもの」に触れてもらおうような実践的な活動を目指しています。映像を見せたり、現地でヨシ群落を観察するような活動を行っています。

特にヨシの「根っこ」に興味があります

す。あるとき、小寺さんに博物館で撮ったヨシの根っこの写真を見せてもらい、「これだ」と思いました。普段は上のほうしか見ていないけれど、根のほうはどうなっているのだろう、水分や養分はどのように吸収しているのだろうと知りたくなりました。

守山市内の目田川には、ヨシが何本もあります。普通は琵琶湖岸ではなかなか引き上げられないですが、目田川のヨシは採りやすいので採取して子どもたちにも見せてもらっています。

小寺 子どもにもヨシがどんな働きをしているのか教えるには、実際に触れてもらうことです。「空気が水の中まで入っていく筒があつて、逆に4メートルまで水を運ぶ」と理屈を言ってもどうも理解してもらえない。大学の講義ではないので教える工夫をしています。

今後やってみたいこと

下田 ヨシの取り組みは広く全国にあるので、ヨシサミットができないかと考えています。最初は滋賀県でヨシにかかわっているボランティアや生産者、産業界のために新しい製品を開発している人などに呼びかけて、3年に一度ぐらいのペースで、会場はヨシが生えているびわ湖の周辺の地域を回り、ヨシサミットを開く。これが成功

にかかわっている人たちが集まって全国ヨシサミットを開いたらどうだろう。いろいろな情報も集まり多くの仲間と連携する機会にもなると思います。

小寺 現在、私は地元の生産組合長をやっています。管理している複数の用水池がありますが、この水の汚れが非常に気になっています。汚い水で米を作っても売れないはず。過去を振り返ると、かつては池の周りにはヨシがいっぱい生えていて、子どもが池で泳ぐぐらいの水質でした。それを復元したい。

今、そのうち一反二瀬の池の擁壁と水門の工事を行っています。併せて池への階段と小型のヨシ地を池に造りました。そこで、子供たちと、苗木作りから植付け、刈取りまでしたいと考えています。

現在、私たちの地域では、琵琶湖から逆水で持って上がった水で灌漑をやっています。この活動を通して、琵琶湖と池や川のつながりを子どもたちに伝えたいですね。

子どもたちは、経験をつんだ話ですが、まともな付き合ってくれませんでそんなことをやろうと考えています。

「ヨシ」を伝える

活動団体等の紹介(敬称略)

【西川嘉廣】

前述西川嘉右衛門商店17代目店主、平成13年度よりヨシ博物館を主宰する。多くのヨシ市民活動家に影響を与えるヨシの神祕的存在。

【ヨシネットワーク】

大津市が実施しているヨシ保全活動をきっかけに知り合った仲間が平成8年に会を結成。滋賀県のヨシの啓発や工作等を民間レベルで実施している。

【滋賀県琵琶湖環境科学センター】

琵琶湖と滋賀の環境について、直面する様々な環境問題に対して、科学的側面から課題解決を図るため、調査・研究を行っている。ヨシについては、生物多様性保全の見地から、植栽や刈取などについての提案を行っている。

【財団法人淡海環境保全財団】

平成5年度に設立。「滋賀県琵琶湖のヨシ群落の保全に関する条例」に基づき、琵琶湖のヨシの「守り、育ち、活用する」を実践して、ヨシについて循環的な視点から取り組んでいる。「ヨシ植栽マット」、「淡海ヨシ紙」、「琵琶湖ヨシ腐葉土」などを販売するほか、多くのヨシ関係の市民団体の助力を行っている。

[平成21年度実施の主なボランティアヨシ刈り等のイベント]

●平成21年

10月20日(火)	長浜市	びわ中学校PTA主催(ヨシ植え)	参加者	320名
10月24日(土)	長浜市	ながはまアメニティ会議主催(ヨシ植え)	参加者	100名
12月5日(土)	野洲市	びわ湖の水と地域の環境を守る会他主催(ヨシ植え等)	参加者	351名
12月6日(日)	東近江市	(株)伊藤園主催	参加者	150名
12月6日(日)	高島市	高島市・針江自治会主催	参加者	300名
12月6日(日) ~平成22年2月21日(日)	大津市	市内各地区実行委員会	参加者	約1,600名
12月12日(土)	湖北町	淡海環境保全財団主催	参加者	55名
12月13日(日)	安土町	小さな親切運動滋賀県本部主催	参加者	400名
12月13日(日)	草津市	滋賀県少年野球交流協会主催	参加者	220名

●平成22年

1月9日(土)	守山市	守山湖岸振興会主催	参加者	150名
1月23日(土)	東近江市	伊庭の里湖づくり協議会、伊庭町自治会主催	参加者	120名
1月24日(日)	草津市	山田21まちづくり推進委員会主催	参加者	50名
1月30日(土)	草津市	小さな親切運動滋賀県本部主催	参加者	400名
1月30日(土)	草津市	N.W.G.C主催	参加者	100名
1月31日(日)	大津市	大津市・雄琴学区ヨシ保全実行委員会主催	参加者	730名
2月7日(日)	大津市	コープしが・大津市志賀コープ委員会主催	参加者	26名
2月13日(土)14日(日)21日(日)	安土町	東近江水環境自治協議会／(株)豊葦原会主催	参加者	635名
3月17日(水)	長浜市	びわ中学校PTA主催	参加者	150名

[主な参加企業(団体)順不同]

●市民団体等

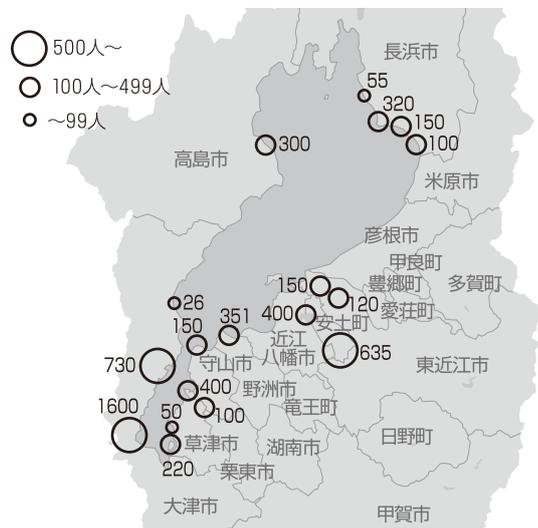
びわ湖の水と地域の環境を守る会、野洲市内自治会(菖蒲、堤、須原、安治、野田、吉川)、中主漁業協同組合、湖南流域環境保全協議会、びわこ豊穰の郷、国際ボランティア学生協会、八幡商業高等学校ボート部、真野ヨシ保全実行委員会、堅田ヨシ保全実行委員会、下阪本学区ヨシまつり実行委員会、膳所まちづくり委員会、晴嵐市民ヨシ火まつり実行委員会、瀬田南学区ヨシフェスタ実行委員会、Team Itteki “一滴”、野洲川でんくうの会、近江舞子内湖を愛する会、安土町商工会、新海浜ヨシを守る会、伊庭内湖の自然を守る会、滋賀県宅地建物取引業協会近江南支部、びわ湖エコアイディア倶楽部、パナソニックグリーンボランティア倶楽部、びわ湖パナソニックファミリー会、BYOS クリーンネットワーク協議会、桜プロジェクト「われら活動隊」、NPO 環境市民、連合滋賀草津栗東地区連絡会、大津労福協、高島屋労働組合、パナソニック電工労働組合、滋賀グリーン購入ネットワーク、滋賀県環境保全協会、SKK伊吹、東近江環境保全ネットワーク、木場湯再生プロジェクト、わたらせ未来基金(順不同)

●企業、行政等

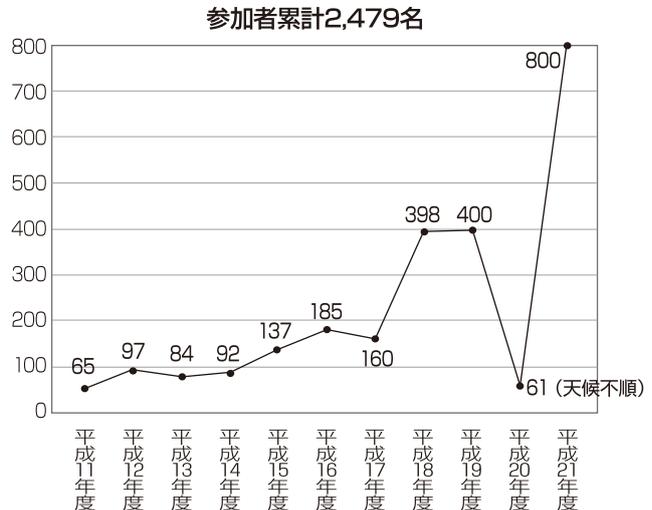
(株)滋賀銀行、しがぎんビジネスサービス(株)、近江鉄道(株)、水資源機構、JAおうみ富士、(株)山久、コープしが、チッソポリプロ繊維(株)、西日本旅客鉄道(株)草津駅、(株)ラーゴ、旭化成(株)、岩谷産業(株)、新江州(株)、(株)びわ湖バレイ、(有)ワイエス商事、伴ピーアール(株)、近土写真製版(株)、旭化成住工(株)、京セラ(株)、日本放送協会、西日本電信電話(株)、(株)エヌ・ティ・ティ・ドコモ、NECグループ、愛知郡広域行政組合、(株)コクヨ工業滋賀、(株)損保ジャパン、(株)アヤハディオ、(株)ケイ・アプティコム、(株)えふえむ草津、琵琶湖汽船(株)、(株)近江兄弟社、近江オドエアーサービス(株)(順不同)

※上記のイベントや団体については、当財団に連絡があったものについて掲載させていただきました。

[企業内のボランティアの参加者数]



[企業内有志ヨシ刈りボランティア参加人数推移]



(滋賀銀行調べ)

持続可能な経営

地域社会とともに

新江州株式会社 代表取締役会長

森 健司氏

「循環型社会の必要性に気づかされたのは、うちが包装材料を扱っているからです。」と語る新江州株式会社代表取締役森健司会長。新江州は滋賀県長浜に本社を置く梱包材を扱う会社であり、2003年創刊されたMOH通信を通して「持続可能な循環型社会をつくるために、今、すべきことは何か」をテーマに様々な人々の活動を紹介し、読者と一緒に考える活動を行っています。売ってなんぼの梱包材メーカーが地球資源のあり方を考えると包装紙は少ない方がいいではないかと問いかける、企業経営と環境活動、一見相反するように見える二つの行為は森会長の中でどのように共存しているのでしょうか。私たちは近代化した社会生活を送りながら、どのように環境課題に取り組むことができるのか、森会長のお話を伺いながら考えました。

● もりけんじ

1936年滋賀生まれ。滋賀県立長浜北高校卒業。新江州(株)代表取締役会長。滋賀経済同友会特別幹事、滋賀経済産業協会副会長、財団法人淡海環境保全財団理事など

著書／「吃音はなおる」遊タイム出版、「循環型社会入門」新風舎、「中小企業にしかできない持続可能型社会の企業経営」サンライズ出版。



循環型社会とは

——循環型社会とはどのような社会のことですか？

森 自然に存在するあらゆるものは循環しています。循環のサイクルよりも早く消耗していけば自然破壊になります。だから、循環している中で消費をしようと提案しています。

たとえば、樹齢百年のヒノキを切って家を建てたら、百年住んだころに、ちよどまた次の樹が育っている。百年の樹を使って25年住む家を作ったら循環からあふれます。循環の速度で生きていくと考えたときに、科学技術の進歩は本当に幸せをもたらしたのでしょうか。もたらしている部分もあるでしょうけれど、先端技術ではなく、中間技術で充分ではないでしょうか。

もう一つ僕たちが提案しているのは「ほどほどに」です。「ほどほどに」とは、人生で達成感を得たいから目標を持ってがんばろうと努力をしていることが非常に楽しいという人も居るだろうし、楽しめるのならそれでいいけれど、苦痛になるようだったらするべきではないと考えます。

この年になつたら分かるけれど、人間の一生は短いもんや。若い頃金持ちになろうと思ってもこの歳になれば、年金さえもらえればなんとかなると気付く。それならば無理して努力をして、辛抱に辛抱を重ねて成長してい

かなくても、もう少しのんびりと暮らしてもいいのではないのか

どこで根性をきたえるか

——たしかにストレスの高い仕事をしないほうがいいのですが、ただ、会長は、著書の中で「丁稚奉公は、家の仕事に比べたらましだった」と書いておられますが、どこでその根性を鍛えたのですか？小さいときの根性があるから、そういうことがおっしゃれる思えるのですか？

森 私は高校を卒業して東京の繊維会社に丁稚奉公に出ました。辛抱を覚えるというのは、当時の諸々の経験の中で養われたのでしょうか。

たとえば、洗濯機がない時代なので、洗濯物は手洗いでした。たらいの確保が大変なので日曜日に、たらいを確保し自分の洗いのものを置いて次の日に来たら、洗濯物が山盛りになっている。「これ、人の洗濯物も入っています。どうしたらいいですか」と先輩に訴えると

「そんなもん、洗わないと仕方がないだろう」と言われて全部洗っていたら半日や一日はかかる。それを黙ってすることが辛抱なのだと思います。

「アホになる修行に行つてみる」

森 親父が丁稚奉公に行くとき僕に言った言葉です。宗教でいうと我を捨てろということです。禅宗の寺での修行は、午前中掃除をして、午後から座禅を組んだりする。そうすると考えている暇がないから、頭が空っぽになっていい。つまり親父は「体で覚えて来い」と言いたかったのです。ふらふらになって、考えている暇もなく頭がからっぽになって、それがひとつの生き様を覚えるというか根性を覚えるということになるのかな。

「辛抱、根性、気配り」といって、辛抱を覚える根性ができる。悔しい思いをしたときに悔しさを忘れず、必ずそれをみかえしてやろう、乗り越えてやろうとするから人間が大きくなる。その上で気配りができるようにになる、というのが理想的なんです。

——今の家庭や大学を卒業するまでにはたまたまそういうことを経験する人もあるのですが、少数派で普通はなかない。我を捨てて埋没したいのですが、自分がなくなってしまうので怖くてできない。



若かりし頃の森会長(右から二人目)

本当に昔の生活に戻れますか？

——ところで経済発展という方向で社会が進んできた中で、経済発展とは逆の方向へ行くことへの抵抗があると思う人も多いと思いますが、森会長にはそれでも大丈夫という経験が過去にあったのでしょうか？

森 公益排水を堆肥として使おうという動きがあります。昔のトイレは、小便是屋内のトイレでして、その上に風呂



2003年に創刊されたMOH通信。
この3月で27号になる

水を落としていた。一日で満杯になってしまふので毎日汲み取りが必要で。大便是外のトイレでして、田畑の堆肥に使った。そちらは月に一回くらいのペースで汲み取りをしていました。その肥え出しをするのはお嫁さんの仕事でした。親父の出した結婚の条件は「肥え持ちが出来る人」でした。今は公益下水道になったので、肥え持ちしなくてい村を作ろうという動きがあります。私が嫁さんに「ああいう村がいいから移住しようか。お前、また肥え持ちするか」と尋ねると「そんなことをしなせん」と却下されました。

昔はひどかった。川沿いで堆肥を車に積んで運んでいると車がひっくりかえって肥え持ちが川へ流れてしまったことがありました。流れた川下では、みな米ときを置いて「なんか茶色いな」という。「弱ったな、いまさらお詫びに行っても怒られるし」と困っていると親類の人が「そんなん放っておき」と。洗顔も川で行っていたし、鼻をかんだのも川に流した。そういうものが流れてきても、それをよけて川の水を使つた。ときには知らずに飲んでいたので。現代人が飲んだら病気になるだろうけれど、抗体ができればなんともないのです。そこまで行くことは無いけれど、今の衛生に対する価値観から少し変えな

ければならないと思います。僕たちは循環型社会の活動の中で、生活水準を1970年に戻そうと提唱しています。——ただバツクすればいいということではなく、その前提に根性や辛抱、気配りができるという課程が存在するのだと思います。できれば小さいときにそういう体験が必要だとお話しを聞いていて思いました。

自然発生的に人材は生えてくる

森 以前、アグリビジネスカフェという農業を考える会で農業経済学の専門家の講演がありました。その専門家は「農業というものは盆栽と一緒なんだ。土や自然に対する愛着を持ってやらないと出来ない。」とおっしゃった。その発言に別の専門家が怒りまして、「農業は趣味の世界など、そんな馬鹿な話はおかしい」と。

これに対し、先の専門家は「農業は産業のように考えてお金儲けの世界のように考えていたら必ず裏切られる。土を愛し、郷土を愛し、やるのが農業だ。土がすきというのが基本にないと農業などできませんよ」と反論された。

これは案外真実なのではないでしょうか。自営業者はそのような感覚を持って商売されている方が多いのでは。会社員は教育されて「お前の好きにやっ

たらあかん、言うとおりに仕事しろ」といわれるが、会社組織に属しない生き方を選らんだ人、たとえば画家などは好きで描くわけだから達成感はあるけれど生活的には苦勞が多い。農業も、まず土を好きになるとか、自然の中に生きることが好きだということが前提にある。僕は非常に感動しました。実は、MOH通信の活動を通して、そういう発想で職を見出している若い人によく出会えます。

過去の実績を捨てる

森 この年になり、脳梗塞や盲腸でおなかを切る体験を経て思うことは、今までやってきたことがコップの中の嵐だったということです。なんでいままであんなことに必死になっていたのだろうと。老人になると覚悟しなければならぬから、一日を大切に生きようという心境になります。

脳梗塞をやったときに、繊維関係は一切新しいものは買わないでおうと決め、シャツ一枚買っています。背広は古いものを着ています。経済には貢献できないけれど、金を使わない暮らし方というのはできないことはない。

こういう話をしていると、「ええ格好でいうてるけど、それで会社経営ができるのか」とよく言われます。現実の経営とは別です。これは未来のあるべき姿なんです。

すべての存在は自己矛盾を持っている。本来あるべき姿と現実に行っていることは違うと意識して、次の世代へ移れるように、例えば、わが社では、環境対応型商品に変えていっている。「儲けもほどほどに」と言っていないながら、会社が赤字になることは防がねばならない。

誰のために働いているのか—
株式上場を志して
見えてきたもの

森 僕も会社を上場したいと思っていて若い頃があったんですよ。そのときに、証券会社がアナリストを派遣してきて、社長教育を受けました。年初に経営計画を提出してその年の暮れ、決算予測を出した時。

「*儲けまずと計画していたが、* *しか儲からないという状態です。」と報告した。

すると、「12月の社員のボーナスはどうしたのですか?」と聞かれた。「それは当然払いますよ。」と答えた。

「それはあんた間違っている」「どうしてですか?」「その考えならあなた自身が一番教育を受けないといけない。あなたは株主の委託を受けて社長をしているんだという意識がまったくないじゃないか。」「そうですね。私は社員と一緒に働いてますから」「それでは上場にならない。上場というの

は、株主と約束をして、これだけの利益を出して、これだけの配当をしないとそうすると株価もあがるかもしれないと期待を持たせて、委託を受けて社長をするわけだから。たとえば、1億円足りなかった場合は、社員のボーナス1億円を削ってでも株主に配当を払う。それが経営者の責任ですよ」とそのアナリストが言うのです。

そういわれればそういうものかと思ったのですが、よく考えたら上場するのはばかばかしくなってきた。一生懸命働いているのは社員なのですから。

—今のビジネス界ではそれが当たり前となつていきます。そこで違うといえる基準点はどこいうところなのですか?」

森 東京名古屋で仕事を覚えて長浜に帰って来た時は価値観が違うのに驚きました。商売がなかなか上手くできない。するとうちの親父が「お前は人を見る目がない。お前はメートル差しかもっていない。相手はインチ差しの人もいれば尺差しの人もいる。お前のメートル差しを当ててみて合わない人とは付き合うな」といった。

判断基準、価値観が合う人だけとつきあっていたら世の中十分やっていけるんです。今ではMOH通信に共感してくださる様々な人とお付き合いしています。そういう感覚を共有できる人たちも大勢居られるのです。

人間は科学の論理だけでは生きていけない

森 科学の先端を極めるのはほどほどにすべきです。ある著名な生命科学の先生に、「死んだ後のあの世を信じますか?」と尋ねたことがあります。すると先生は、「森さん、私は生命科学をやっています。そんな質問を聞きたくない。そんなものあるわけないやろう。」とおっしゃった。

生命科学というのは、自然の中にある生命体については研究対象なのですが、生命が切れた後については対象外なのです。

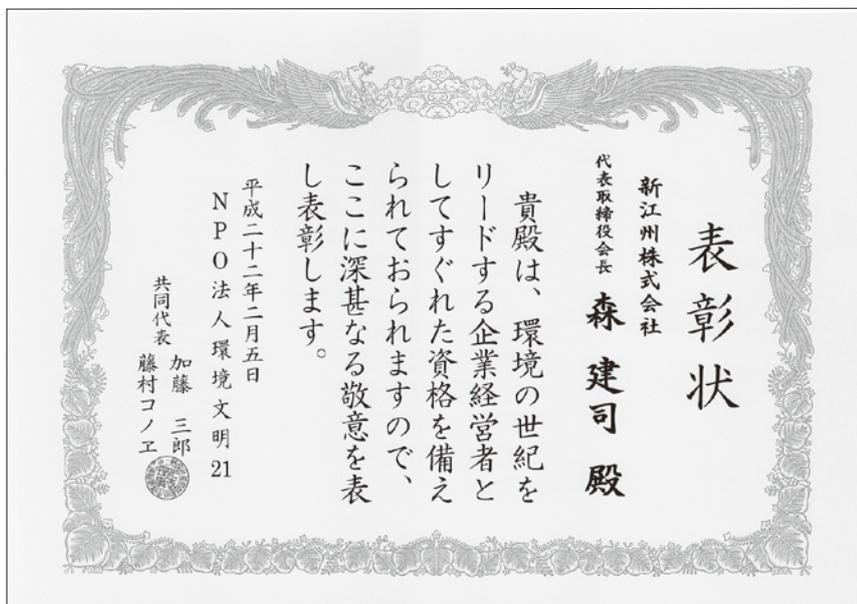
しばらくして、その先生の奥さんが亡くなりました。その後、先生は少々夜が遅くなられても泊まろうともされず、「女房が待ってるから帰るわ」とおっしゃる。車で送りながら、

「先生まだあの世を信じませんか?」と聞くと

「いや、あの世があつてほしい。森さんあの世の話しを聞かせてほしい。」

とおっしゃった。あの世があつてほしいんだ。死んだ女房が待っていてほしい。論理的にはおかしいのだからうけれど、人間の生き様は科学の論理だけでは語れない。

「生命」は科学の対象になるが、「いのち」は自分のことだから科学の対象にはならないですね。「人間の幸せ」とはなんなのか。幸福論のようなものが、これからいっばい出てくるのではないかな。



今年2月、21世紀の社会をリードする経営者に贈られる、第2回経営者「環境力」大賞を受賞

マンション自治会が取り組む琵琶湖の水草対策



エコフォスター茶が崎
阪東太郎さん



大津市立皇子山中学校
堀雅喜さん

琵琶湖で異常繁殖している水草が問題となっています。当財団も琵琶湖の水草除去を行っておりますが、市民レベルで対策を実行している団体が現れました。岸边に流れている水草を除去する活動に取り組んでいる団体「エコフォスター茶が崎」のメンバーにお話を伺いました。

「いつごろからどのように活動を始めましたか？」

阪東 本格的に始めたのは平成19年12月頃、マンション周辺のゴミ拾いから始めました。私がこのマンションに越してきてからです。

引越しの際、妻と「琵琶湖に面して景色がいい場所だね」と話していて、ベランダに出て絶句しました。この景色です。(左下写真参照)

遠目には草が伸びていてよく分かりますが、駐車場は放置車両やタイヤなどゴミだらけでした。湖畔にも打ち上げられた水草や、すさまじい量のゴミが放置されていました。「ほんまにここに引越してくるの?」と妻がつぶやきました。



「引越す」と私は言いました。「ゴミくらいならなんとかなるだろう。これだけ琵琶湖が近くて良い場所はその間にない」

越してからしばらくしてゴミ拾いを始めました。当初は一人でやっていた。まずは放置車両の件で滋賀県庁に何度も足を運ぶうちに、助成金や淡海環境保全財団のことを知りました。

現在、マンション住民からメンバーを募り、住民の約1割弱にあたる15家族37名の方から賛同をいただき月一回マンション沿いの琵琶湖畔でゴミ及び水草の除去作業に取り組んでいます。

「水草除去について詳しく教えてください。」

阪東 ゴミがなくなり綺麗になったから、今度は水草が岸边に押し寄せて水遊びができず、もったいないと水草を捕るようになりました。

水草は二酸化炭素を吸収して光合成し成長しますので、琵琶湖に酸素を還元してくれています。しかし、根を離れ浮遊し岸边に打ち上げられた水草は、放置すると腐敗し悪臭と二酸化炭素を排出します。そうなる前に回収処理します。最終的には大津市の美化活動に伴うごみ回収のゴミに出します。埋め立て処理になると聞いています。しかし、出来る限り河川敷の堆肥にするようにしています。乗用草刈機などで裁断して地面に浸透させています。

以前はがたがた道だった場所が、今では芝が生えています。

環境に少しでも興味を持ってもらうと子どもたちにもこの仕組みを教えています。

子どもたちをメンバーに迎えるの作業では、水草は一回300キロくらいしか回収できないのですが、目先の成果よりも子どもたちの将来を考えています。大人二人が本気で活動を行うと、一回1トンくらいは回収できます。

—子どもが参加したのはいつからですか？

阪東 平成20年2月くらいからです。

この活動を始める少し前に、近所の子どもがあるときふと言いました。

「おっちゃん、何かやることない？暇や」

最初はひよんなことから始まりました。ある日曜日の夕方、我が家に子どもたちが集まってテレビゲームをしていました。

「テレビゲームしているくらいなら、みんな、ゴミ拾い行かへんか」

と私が声をかけました。みんなが「行く」

とついてきてくれました。このときは狙いも何ありませんでした。

—近所のおじさんに誘われても、子どもにとってはテレビゲームの方がいいんじゃない？

堀 最初は「面白そうや」と思っていていきました。普段から阪東さんがゴミ拾いしている姿をマンションの廊下などから目にしていて最初は「何してんの、何でゴミ拾してるの？」

と思ったのですが、地球温暖化の問題なども聞いていたので、「だからかな」と、だんだん「かっこいい」と感じるようになりました。それで阪東さんに誘われて、地球のためにせなあかんと思いました。

—「ゴミや水草がある場合、区役所や県など行政に苦情を訴えることはして、自ら拾おうとアクションを起さる方は少ないと思えますが。」

阪東 「やりたければ、自分でやればいいんや」と単純に思っていました。

数年前、同じマンションで「茶が崎の環境を守る会」という団体が、ゴミの清掃活動を行っておられました。結局この団体は代表の方が引越され解散されましたが、この姿を知っていたので最初からそう思っていました。

—活動中での問題点をお聞かせください。

阪東 月一回活動していますが、なかなか集まってもらえないことです。呼びかけは「暇なら来てな」と言うようにしています。ボランティアなので強制はしない。今回のように取材が入る場合は絶好の集まっていたくチャン

スです。会社ではないので、地道にマイペースでやります。モチベーションのキープが課題です。

それから行政の腰があまりにも重い。私たちは湖面に漂う水草を回収するために小型船を一艘所有しています。湖底に沈んでいた船を引き上げて修理したものです。

当初、漁港に泊めさせてもらっていたのですが、管理者が代わり「エコフオスターさんだけ泊めるわけにはいかない」と言われ、「うちは遊びで使っているわけではないので、何とかお願いできないか」と頼んだのですが、「ここは漁業施設なので困ります」とのこと。

困り果てていたところ、旅亭紅葉さんから「水草の除去に使われるならどうぞお泊めください」と言っていたのでした。この申し出がなければ船を手放すところでした。子どもらにとつて船上での活動は大人気で、楽しみの一つなのです。

—活動をやっていて良かったことはありますか？

堀 綺麗にした浜でみんなが遊んでいるのを見るとうれしい。大人になってもこのような活動を続けたいです。

阪東 ゴミ拾いすると一時的にゴミが増えます。しかしゴミ拾いをする事で、ゴミを捨てなくなり、長い目で見るとゴミの減量化になります。それは地球温暖化防止になります。この活動に参加

している子どもは、きつと一生ゴミをその辺に捨てることはないでしょう。

堀君は子どものコアメンバーの一人です。小さい子の面倒見もいい。やる気のない大人より役に立ちます。実は、彼には20歳になったら自治会長をやってもらおうと考えています。普通、自治会長といえは60歳、70歳の方がやるものですが、20歳で自治会長をやった人なら、就職の際、私が社長だったら即採用します。彼は現在13歳なので7年後です。まずは副会長を1年やらせて仕込んで…などと考えています。

—団地などで住民の方がどのようにまとまっていられるか興味があります。阪東さんの場合、一人でやり始められたので動かすのは大変だったのでは？

阪東 それは大変でした。水草は、マンション住民の皆さんにとつても虫が飛んでくるなど、やっかいな問題です。ので、理解はあると思います。逆に、何も問題がないとやれてないかもしれませぬ。住民が一つの同じ問題意識を持って取り組めるのは重要です。

2009年度
“CO2ダイエットコンテストinおうみ”
グランプリおめでとう!
東近江市立能登川南小学校
～小学生が大人のエコ意識をかえた!!～

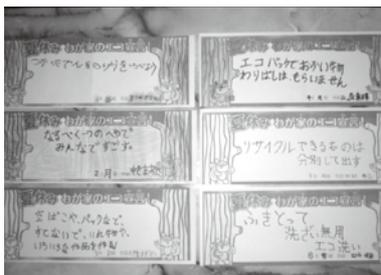
《入賞者紹介》

グランプリ

東近江市立能登川南小学校
「エコスクール活動」



ストックハウスでゴミ計量



我が家のエコ宣言



森林再生プロジェクト植樹



無駄電気節電チェック



手作り雨水タンク

【活動内容】

学校内部における環境教育という枠に収まることなく、小学校が地域の拠点となって環境活動に取り組んでおり、子どもが地域を巻き込み、地域は全体で子ども達の活動を支える体制が理想的に構築されています。特筆すべき点は、その活動内容を大人が決めるのではなく、企画段階から「今年はこの活動がしたい！」と子ども側から大人のサポート委員会へ提案があり、話し合いが持たれ、今年は何をするかを決め、実際の活動に至っているという点です。このことにより、子ども達はやらされるのではなく、

自ら考えて決めた事をやり抜く充実感や、活動の継続性が生まれてきているのではないのでしょうか。そして、この環境活動を通して、子どもの主体的に生きる力を育むとともに、それを受け止めている高校生やまちづくり協議会の大人達など、支援している地域の環境意識の向上にも寄与し、そこから地域や家庭での様々なCO₂削減の取組の輪の拡がりにつながっていることは、本当に素晴らしいことです。このような取り組みが、全国へ広がっていくことを期待しています。

準グランプリ

●草津市「小」エネルギー推進市民フォーラム

「市と市民がともに進めるゴーヤカーテン事業」

ゴーヤカーテンにより、室内の温度上昇を抑制し、冷房などの電気使用量を減らすとともに、省エネ意識を高め、地球温暖化の防止を図っています。

●滋賀県立大学環境マネジメント事務所（EMO）

「食でつなげる地域とキャンパス～地産地消プロジェクト～」

- ・輸送距離の短縮によりCO₂削減につなげます。
- ・地域とキャンパスのつながりを食でつなげ、より強固なものにします。

入賞

●『桜プロジェクトーわれら活動隊』

「『35年目のエコ・ニュータウン』

—いつまでも“活気あふれる、美しい街、エコタウン”をめざして」

- ・環境問題は
 - (1) 一人の百歩より、百人の一步から
 - (2) 継続は力なり（「これからの元気なふる里づくり」をめざす）
 - (3) コラボレーションで面展開を
- ・いつまでも活気のある、美しいエコ・タウンをめざします。

●遊林会

「里山の保全活動」

- ・「木を伐って森を守る」を合い言葉に、放置され荒れ果てた里山に入り、生物が多様で人が気軽に入れる里山づくりを目指して、里山保全活動を行います。

●滋賀県立大学グリーンコンシューマーサークル

「大学生発！“選んで買う”から始まるグリーン市場」

- ・環境配慮商品の普及促進・購入への促進を行うことで、グリーン市場の開拓を進めます。

●楽農舎なごみの里観光農園

「地域の生ゴミ、未利用資源を活用した循環型農業の実践」

- ・地域の生ゴミや未利用資源を循環型農業で活用することにより、地域で農と食のリサイクルをすすめ、循環型社会を実現します。

一般投票大賞

●エコフォスター茶が崎

「琵琶湖の藻の腐敗前回収と緑地化」

- ・琵琶湖で異常繁殖している藻を回収し、水草の腐敗によるCO₂排出削減をねらいます。

●環境基本計画推進会議「水と緑・安心の野洲」

「みどりカーテン事業」

- ・公共施設の窓辺につる性植物（ゴーヤ）を植えることで、植物を利用したカーテンを作り、夏場の強い日差しを遮ります。
- ・このことにより、夏期の冷房の使用量を控え、省エネルギーおよび省CO₂を進めます。

【財団活動紹介】

平成21年度も当財団では、琵琶湖の環境保全や温暖化対策を中心に様々な事業を実施しました。主な事業をご紹介します。

1.ヨシ群落の保全に関すること

●ヨシふれあい事業

ヨシ腐葉土を使って草津市下物町の田んぼで、ボランティアさん協力のもと「ヨシ米」を栽培しました。また新たなる地域のヨシリーダーを育てるため、3回の講習会を実施し、14名のヨシリーダーが誕生しました。さらに昨年に続きヨシ産業交流研究会を3回実施し、びわ湖環境ビジネスメッセで、ヨシ製品の展示、セミナーを開催するとともに、佐川美術館でヨシ製品の販売を行いました。



びわ湖環境ビジネスメッセ会場ヨシ製品展示

●ヨシ群落維持管理事業

琵琶湖周辺のヨシ群落12ヘクタールの刈取清掃を実施しました。



●ヨシ育成事業

(株)伊藤園様から県への寄付金を原資として、竹杭突堤を設置によるヨシ原の回復事業や東近江市内ヨシ群落の刈取清掃およびヨシ保全活動を行う市民団体への助成を実施しました。

その他、ヨシ育苗成事業、ヨシ紙製作事業、ヨシ腐葉土製作事業、ヨシ製品販売促進事業、琵琶湖ヨシ拠点整備事業、琵琶湖ヨシ植栽モデル事業、ヨシ群落造成事業を実施しています。

2.環境保全・自然保護に関すること

●環境保全活動支援事業

滋賀県市町村振興協会より補助金を受け、滋賀県で環境保全活動に取り組む12団体に合計4,007,000円を、また、(株)びわこ銀行から寄贈された寄付金を活用し、CO₂削減に取り組む15団体に合計1,219,000円の助成を行います。

●環境情報発信事業

環境情報の発信として、本年度より財団メルマガを創刊しました。さらに財団ホームページ情報の定期更新、小誌「明日の淡海」を年1回発行しています。

●環境学習推進事業

県下8小学校500人の子どもたちに「ヨシ学習会」を実施しました。また本年度もヨシリーダーに講師をお願いしました。また1月30、31日に水鳥観察会を琵琶湖各所で実施しています。



●こども環境特派員事業

本年度は、11月に中国で行われた第13回世界湖沼会議に、県内から選ばれた7名の小学生を派遣しました。

●南湖水草刈取事業

航路障害などになっている南湖の水草を、年9回漁船を使い根こそぎ除去しました。



その他、水草刈取事業、ハス管理適正化事業、湖底改善・生産力向上事業、腐植土を活用した浄化実験事業、湖沼河川水質浄化実証実験事業を実施しています。

3.温暖化防止活動に関すること

●地球温暖化防止活動推進センター普及啓発・広報事業

滋賀県内各地で、地球温暖化防止活動推進員が、地球温暖化防止のための出前講座や啓発を100回実施しました。

その他、省エネ・お得ポイント事業、太陽光発電設置推進滋賀モデル事業、温暖化防止活動推進センター活動事業、温暖化防止活動国委託事業、太陽光パネル設置補助事務委託を実施しています。

【お知らせ】

次の皆さんから淡海環境保全財団が実施している滋賀の環境保全に役立ててほしいと寄付金と物品を贈呈していただきました。

(株)びわこ銀行様 甲賀郡農業協同組合様 (株)ケイ・オプティコム様 (株)コクヨ工業滋賀様



.....

[編集後記]

本号は、琵琶湖のヨシの特集です。近年多くの方がヨシ刈りボランティアに参加いただけるようになりましたが、最初の動機としては、琵琶湖の水環境を少しでもよくしたいということが多いようです。しかし毎年活動いただいている「ベテラン」になると、少し変わってくるようです。「刈り取って掃除した後のヨシ原の様子になにかすっきりした宗教的なものを感じる。」「流域に住む自分の1年間の生活が、下流にある琵琶湖のヨシの様子に現れるような気がする。」等。猛者になるとすごいです。

.....

〈表紙写真：ヨシ刈り（守山市）〉

 **財団法人 淡海環境保全財団**

〒520-0807 大津市松本1丁目2番1号大津合同庁舎内
TEL.077-524-7168 FAX.077-524-7178
E-mail:info@ohmi.or.jp URL <http://www.ohmi.or.jp>



本誌は、環境や資源の有効活用に配慮した印刷物です。